



成長を願いながら苗木を植える児童たち

自然への理解や防災意識を育む「緑はどうなった？」

(緑はど

うなった？実行委員会主催)が6月9日、小有珠川遊砂地周辺で実施されました。

環境授業の一環として取り組んでいる洞爺湖温泉小学校の児童のほか行政関係者や砂防ボランティアなど約50人が参加し、植生の回復を願って苗を植えました。

この日は、温泉小の児童らが7班に分かれて、トチノキやミズナラ、ドロノキ、アオダモ、ミヤマハンノキなど20種類の苗木を、北海道科学技術大学の岡村俊邦教授らの指導を受けて、直径3mほどのサークルに植栽しました。

## 洞爺湖温泉に20種類の苗木植栽「緑はどうなった？」実施

## ななかまどの会植樹11年間継続してきた緑化活動終了

ボランティアサークルななかまどの会(坂井千枝会長・会員8人)が、6月15日、洞爺湖温泉の噴水公園内にヤマザクラの苗木5本を、会員3人が参加して植樹しました。同会が毎年この時期に行っている行事で、今年は昨年に続いて同公園内にある駐車場の横で実施。会として11年間継続してきましたが、植樹の場所が確保できないとの理由で、今年が最後の活動となりました。

坂井会長は「ずっと続けてきたので少しさみしい。町内の各所で自分たちが植えたサクラが成長しているのを見て、やってよかったと思います」と活動を振り返りました。



ヤマザクラの苗木を植えるななかまどの会の会員たち

## 新緑映える中島を楽しむ自然ふれあい行事「中島散策」

新緑の洞爺湖中島の自然に触れてもらおうと、6月の自然ふれあい行事「中島散策」(洞爺湖ビジターセンター主催)が6月24日、18人が参加して行われました。

コースは、大平原までの片道約1.5kmの距離で、洞爺湖ビジターセンター職員の川瀬康平さんと稲村実穂さんがガイド役を務めました。参加者らは、同島の自然に触れながら、同時に現在抱える問題も学びました。

コース終点の大平原では、ネイチャーゲームを行い、帰路には、ビンゴゲームで楽しみました。普段訪れる



職員から説明を受ける参加者たち

機会の少ない中島の自然を満喫しました。



力強いショットを放つ参加者

6月25日、第17回洞爺湖町長杯町民パークゴルフ大会(洞爺湖

町パークゴルフ協会主催)が、夕日ヶ丘パークゴルフ場で開催され、参加者64人が27ホールでの戦いに挑みました。

西田久会長が「今日1日楽しんでプレイしましょう」と挨拶した後、4人1組で噴火湾、溶岩、有珠山の各コースをスタート。同伴者とスコアを競い合いながらパークゴルフを楽しみました。

上位の成績は次のとおり。

男子 1位吉田富夫さん 2位武川敏雄さん 3位国分睦雄さん/女子 1位沼田美津子さん 2位沼田千枝子さん 3位西田順子さん

## はつらつプレー続出町民パークゴルフ大会